

— みんなで守ろう、文化財。 —

回覧

平成27年度

文化財防火訓練

毎年1月26日は、「文化財防火デー」です。昭和24年1月26日、現存する世界最古の木造建造物・法隆寺の金堂が炎上し壁画が焼損してしまったことの反省に基づき、国民の財産である文化財を守るため、文化財防火デーが制定されました。

安城市にも、たくさんの貴重な文化財が存在します。安城市では毎年、文化財防火デーに近い土曜日または日曜日に文化財防火訓練を行い、市民の皆さまにご参加いただいています。

日時 平成28年1月24日（日）
午前9時から（1時間程度）

会場 大岡白山神社（大岡町）



訓練内容

- バケツリレー
- 消火器の練習
- 模擬文化財搬出
- 負傷者救助訓練 など

しっかり練習して、いざという時にこなえよう！



みんなの町の文化財を守る練習じゃ！

予約不要

子どもから大人まで、
どなたでも参加できます。

この機会に、あなたも体験しませんか？



昨年度の訓練（本證寺）

（協力）大岡町自主防災会、安城市消防団、安城消防署

お問い合わせ先 安城市教育委員会文化振興課文化財係（歴史博物館内）：安城市城堀 30 番地 TEL. 77-4477

◆◆大岡白山神社の文化財◆◆

①大岡白山神社 本殿(安城市指定文化財/平成19年11月3日指定)

大岡白山神社は、養老2年(718)の創建と伝えられ、はじめは「大岡明神」と称したといひます。

天文2年(1533)に徳川家康の祖父である松平清康が社殿を造営しましたが、天文9年(1540)に織田軍の兵火により焼失したと伝ひます。その後、永禄10年(1567)に家康により再建され、慶長9年(1604)に社領138石を寄進されました。

木造平屋建、桁行3間※、梁間2間の三間社流造で昭和11年頃に屋根が桧皮葺から銅版葺に変わりました。現在は本殿と拝殿の間に渡殿が増築されて棟続きとなっていますが、建築当初、本殿は独立して建っていました。部材の形状や梁などに彫られた文様、柱の面取りの仕方などから、小屋組や屋根などを除いて家康により再建されたとされる永禄10年以降のものみられ、安城市内では最古の建物です。

※1間=1.818m



②大岡白山神社の絵馬 三面(安城市指定文化財/平成3年11月3日指定)



大岡伯産神社の絵馬は、紙面に描かれていることから「紙絵馬」といわれます。紙絵馬は、岐阜県や高知県など、紙の特産地に多くみられます。

写真の絵馬は、天保9年(1838)に奉納されました。縦109cm×横94cmの大きさのものです。三国時代(中国)の蜀という国の武将・関羽の後姿が描かれています。

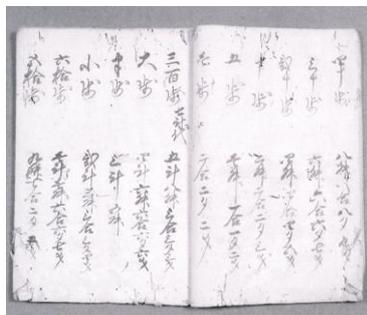
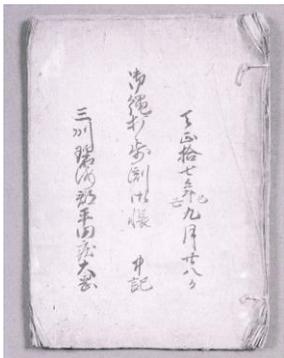
このほか、天保5年(1834)、文政7年(1824)に奉納された紙絵馬があります。どちらも関羽像が描かれています。関羽は、中国では財神あるいは家運興隆の神としてまつられていることから、それを願って奉納されたものと考えられます。

③大岡村御縄打歩測御帳

(安城市指定文化財/昭和36年10月1日指定)

徳川家康が関東に移封される前年(1589)に、豊臣秀吉から命じられて三河・遠江・駿河・甲斐・信州の領国で実施した検地の際の耕地面積と年貢収量との換算表です。この年の検地帳は、三河に3点存在します。

面積の表示に、近世以前の数示法や、石高のほかに一部に貫高制を残すなど古い形式をとっていることから、家康がもとの主家筋である今川氏の領国支配の方法をそのまま受け継いだことがわかります。



④大岡村検地帳

(安城市指定文化財/昭和36年10月1日指定)

江戸幕府による三河各地の検地は、慶長8年から9年(1603~1604年)に初めて行われ、「慶長検地」の名で知られます。安城市域では9か村で実施が確認されています。

この検地帳は、白山社領大岡村の検地帳です。岡崎城主本多豊後守の家臣・中嶋半兵衛がこの検地の担当責任者でした。中嶋の名を残す検地帳は、額田郡地方の岡崎領村々にかかなりあり、これは岡崎領の慶長検地帳であることを示しています。

